

# 田川水系河川整備基本方針

平成 15 年 7 月

長 崎 県

# 田川水系河川整備基本方針

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	1
( 1 ) 田川 <sup>たがわ</sup> 流域の概要 .....	1
( 2 ) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	3
1 ) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 .....	3
2 ) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに 河川環境の整備と保全に関する事項 .....	3
3 ) 河川の維持管理に関する事項 .....	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項 .....	4
( 1 ) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 .....	4
( 2 ) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	4
( 3 ) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項 .....	5
( 4 ) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項 .....	5

< 参考図 >

田川水系流域概要図

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 田川流域の概要

田川は長崎県対馬島中部、下県郡豊玉町の北西部に位置する流域面積約3.8km<sup>2</sup>、幹川流路延長約2.1kmの二級河川です。標高242mの黒隈山より発した流れは、ほぼ西に向かって山間部を貫流した後、平地部に入り田園地帯を流下して三根湾に注ぎます。

流域の気候は日本海型気候に属し、秋から初春にかけては大陸からの冷たい季節風のため冷え込むことが多く、年平均気温は16程度です。年降水量は2,200mm程度で、梅雨や台風の影響を受けるため6月から8月にかけて雨量が多くなっています。

流域の地形は、その大半をしめる標高200m前後の山に囲まれた山地部と、河川沿いの狭い平地から構成されています。

流域の地質は、第三紀の対州層群で、岩層は主に砂岩・頁岩・粘板岩からなり、下流域の平地部では沖積層がみられます。

流域内の土地利用状況は、その大部分が山林によって占められていますが、河川沿いの平地部は宅地及び水田、畑等の耕作地として利用されています。なお、ここ20年は、宅地や水田、畑地等にほとんど土地利用の変化は見られません。

また、流域内の主な産業は、農業や漁業等の第一次産業となっています。

流域内の人口は昭和50年以降減少傾向にあり、現在の人口は約170人で、そのほとんどが中下流域に集まっています。

流域内の主要交通網としては、右岸側を1km余りに渡って田川と並走する町道佐保田線や、上流部で左岸側を400mほど並走してよこぎる対馬の重要な幹線道路である国道382号があります。

田川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は、以下のとおりです。

## 治水の概要

田川は、河幅が狭く流下能力が低いいため過去幾度となく洪水氾濫を起こしており、平成10年8月、平成11年8月の集中豪雨では家屋の浸水や田畑・道路の冠水などの甚大な被害を受けています。このようなことから、田川では抜本的な治水対策が必要となっています。

## 利水の概要

田川においては、河川から耕作地への取水は行われておらず、地下水の汲み上げにより農業用水が確保されています。

## 自然環境および河川利用状況

田川は全川を通して、河川の水量が降雨時とその後数日を除いて非常に少ないという特徴をもっています。

田川の流域は、その河道状況から感潮区間である河口から田大橋付近までを下流域とし、それ以外を中上流域に区分することができます。

中上流域は、河道内にヨモギ群落やイノコズチなどが繁茂しており、わずかな流れの中にタカハヤ、ギンブナが確認されています。また、河道周辺にはシイ・カシ萌芽林やコナラ群落、コナラ-ノグルミ群落などが分布しています。

鳥類としては、カケス（準絶滅危惧：長崎県レッドデータブック（以下 長 という。））やトビなど、哺乳類及び両生類としては、カヤネズミ（準絶滅危惧：長）や、ツシマサンショウウオ（対馬の固有種）がそれぞれ確認されています。

下流域は、河岸のほとんどがブロック積護岸で整備されていますが、河口域左岸側の崖地を中心にゲンカイツツジ（絶滅危惧 類：環境庁レッドデータブック（以下 環 という。））が確認されています。また、水際には、塩生植物であるハマサジ（絶滅危惧 類：環）、シバナ（絶滅危惧 類：環）といった貴重種をはじめとして、フクド、ヒメヨモギ、ヨシ群落などが見られ、魚類としてボラ、メジナ、ハゼ、ウグイなどが確認されています。

河川空間の利用としては、河川沿いの道路が周辺住民の生活道路や通学路として利用されています。また、河川沿いの周辺農地では農業用水を汲み上げるための井戸が数多く見られます。

水質に関しては、公共用水域の類型指定は受けていませんが、田大橋付近において平成13年6月から平成14年2月に行った観測結果では、BODの平均値が0.6 mg/lで、良好な水質であるといえます。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では、長期総合計画の中で「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

田川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経済の発展に係わる諸計画（豊玉町総合計画等）との調整を図りながら、源流から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図ります。

またその際、地域へ水文や水質などの河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進、河川の維持に係わる取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

### 1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

田川においては、想定氾濫区域の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する洪水を安全に流下させることのできるよう堤防等の整備を行います。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

### 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、現状の水環境の保全を図って行きます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、下流部で確認されているゲンカイツツジ、ハマサジ、シバナなどの生育環境の保全や、中流域で確認されているカケス、カヤネズミ、ツシマサンショウウオをはじめとした動物の生息環境の保全に努めるとともに、親水性にも配慮した河川の整備を行っていきます。

### 3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から適切に行います。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点<sup>しげのさえばし</sup>茂ノ亜橋において50 m<sup>3</sup>/s と設定し、これを河道に配分します。

基本高水のピーク流量等一覧表

(単位：m<sup>3</sup>/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
田川	しげのさえばし 茂ノ亜橋	50	-	50

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

田川における計画高水流量は、基準地点<sup>しげのさえばし</sup>茂ノ亜橋において50 m<sup>3</sup>/s とします。



田川計画流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

田川水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

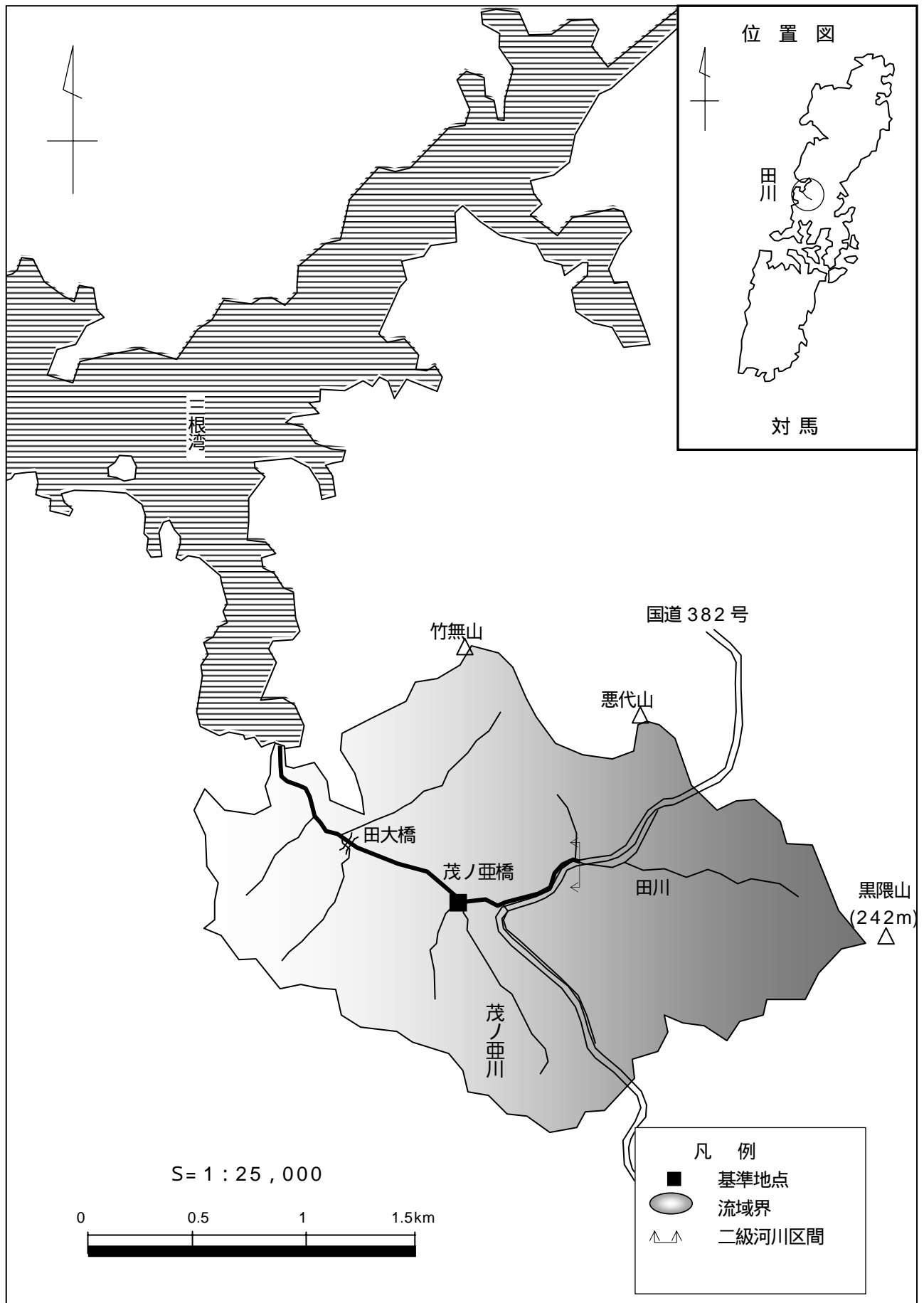
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (I.P. m)	川幅 (m)	摘要
田川	しげのさえばし 茂ノ壱橋	1.18	+ 6.38	10	基準地点

(注) I.P. : 厳原港平均海面

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

田川においては、河川から耕作地への取水は行われておらず、地下水を汲み上げることで、農業用水を確保しています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後、流量データの蓄積等に関する調査検討を行います。



< 参考図 > 田川水系流域概要図